

西学東漸研究の中文・日文文献情報

著書

- 『東西文化比較研究 利瑪竇入華及其他』 張錯 2002 香港都市大学出版社、199 頁
『新民與復興 近代中国思想論』(亞洲學術文庫 11) 周佳榮 1999 香港教育圖書公司
『王韜與近代世界』 林啓彦・黃文江主編 2000 亞洲學術文庫 14、香港教育圖書公司

論文

- 「英華書院(1843-1873)與中西文化交流的歷史意義」 黃文江『アジアの諸問題——深澤秀男教授記念論文集』(岩手大) 2000 年 23~39 頁
「抵制東瀛文体：清季圍繞語言文字的思想論争」 羅志田『歷史研究』2001 第 6 号 57~74 頁
「19 世紀香港書刊在日本的傳播」
周佳榮『歷史與文化』(浸会大) 2001 年第 2 卷 79~84 頁
「『英咭喇国新出種痘奇書』考」 張大慶『中国科技史料』2002 第 23 卷 3 号 209~213 頁
「日本江戸時期傳入的中国医書及其和刻」
真柳誠『中国科技史料』2002 第 23 卷 3 号 232~254 頁
「氧氮氣的翻譯：1896-1944 年」 張濬『自然科学史研究』2002 第 21 卷 2 期 123~134 頁
「昂布魯瓦茲・帕雷『解剖学』之中訳本」
鐘鳴旦『自然科学史研究』2002 第 21 卷 3 期 269~282 頁
「明治期における近代哲学用語の成立——哲学辞典類による検証」
朱京偉『日本語科学』2002 年第 12 号 96~127 頁
「明治時代における漢訳語の影響」
松井利彦『近代語研究』2002 第 11 集 313~327 頁
「『西国立志編』解題・第二編本文及び語彙索引稿」
鈴木丹士郎ほか『専修国文』2002 年第 71 号 1~126
「近代亞洲史上的英華書院」 周佳榮『明報』2002 年 12 期 94~95 頁
「『米歐回覽実記』の漢語について——外国語のカタカナルビとの対応」
木村 一『文学論藻』(東洋大) 2002 年第 76 号 1~17 頁

近代東西言語文化接触研究会の活動

第7回研究会は、2002年7月20日(土・海の日)14時～17時、関西大学岩崎記念館2F会議室にて40名ほどの参加者を得て開催した。

発表者とテーマ

谷口知子(関西大学大学院):『美理哥合省国志略』(1838)の新情報と新表現

千葉謙吾(早稲田大学大学院):国名表記の固定と変化——「美」「法」と「米」「仏」

鈴木広光(奈良女子大学):宣教師の言語戦略——翻訳と印刷

研究会情報

3月23～24日 中国北京外国語大学 国際シンポジウム:16～19世紀近代新語・訳語の形成と交流。日本から多数の研究者が参加し、研究発表を行った。



発表後の討論(左から松井利彦氏、陳力衛氏、李漢雙氏、孫宗光氏)

8月28日 中国科学院自然科学史研究所 国際シンポジウム:近代中外文化與科学交流 日本から、松浦章氏、内田慶市氏、沈国威が参加し、研究発表を行った。

研究会の開催

(1)

国際シンポジウム：漢字文化圏における近代語の成立と交流

1 縁起：

2001年2月23日、国立国語研究所を学術訪問中の朱京偉氏が同研究所の助成を受けて、研究会「日中近代学術用語の創出と伝播」を計画した。多数の参加者を得て、有意義な討論を行った。多くの参加者からこのような研究会は、毎年開いてほしいとの要望を頂いた。2002年3月23～24日、朱京偉氏の奔走で、北京外国語大学日本語科・日本学研究センター共催の形で、また国際交流基金からも一部助成を受け、「16～19世紀近代新語・訳語の形成と交流」と題する国際シンポジウムを開いた。韓国の研究者も参加し、研究発表を行った。国際的に関心の高い研究テーマで（漢字文化圏だけではなく欧米でも）、研究成果を発表するため年に1回研究会を開きたいというのが参加者の共通した願いであった。

しかし、ご承知のように国を跨る学会の開催は、多くの困難を伴うものである。この度、韓国高麗大学の李漢燮先生が万難を排し、2003年度の研究会を来る3月21日（金）に韓国祥明女子大学校にて開く準備を整えてくれた。より多くの参加者を得るため、第3回研究会は、韓国日本語学会との共同主催の形を取らせて頂く。3月22日は韓国日本語学会全国大会の開催日である。

2 第3回研究会の概要

ア. と き： 2003年3月21日 9時30分～5時

イ. ところ：祥明女子大学校

ウ. 参加者：韓国、日本、中国から40人以上が参加する予定。なお、研究会は、韓国日本語学会の会員やその他の関心のある研究者にオープンする。なお、本研究会の使用言語は、日本語である。

3 プログラム

3月20日（木） 晩 参加予定者による前夜祭、情報交換

3月21日（金） 研究発表

午前の部

09:00～ 受付

09:30～12:00 研究発表：発表者5名、発表時間各25分、集中質疑応答25分

12:00～13:00 昼食

午後の部 13:00～16:50

13:00～13:50 講演(韓国の研究者)

14:00～15:30 研究発表：発表者3名、発表時間各25分、集中質疑応答15分

13:30～15:50 コーヒーブレイク

15:50～16:50 研究発表：発表者2名、発表時間各25分、集中質疑応答10分

18:00～20:30 懇親会(韓国日本語学会の人も来る)

4 発表予定者(敬称略)

朱京偉(北京外語大学)、千葉謙悟(早稲田大学院)、陶徳民(関西大学)、朱鵬(天理大学)、王敏東(台湾銘伝大学)、高野繁男(神奈川大)、舒志田(上海同済大)、韓国3名(講演者を含む)

5 問い合わせ

韓国：李漢燮(高麗大) Email: lhs1001@hotmail.com

関西：沈国威(関西大) Email: guowei@kansai-u.ac.jp

関東：陳力衛(目白大) Email: chenliwei@mejiro.ac.jp

中国：朱京偉(北京外大) Email: zhujwpost@163.net

6 今後の予定

「漢字文化圏近代語研究会」という名称(仮称)で活動を続けていきたい。特に組織を作らないが、上記の4名が連絡役を務める。順番で中国、韓国、日本で年1回のペース研究会を開くよう努力したい。開催地の連絡役は、該当年度の研究会の世話人を引き受ける。みなさまのご意見、ご提案を賜りたい。

(2)

国際シンポジウム：西洋の中国語研究

時間：2003年6月20～22日

場所：北京外国語大学

詳細について『中国語文』2002年第3号216頁を参照